

相手を意識した発表と交流の実践

－ 教育用プレゼンソフトと教育用交流掲示板を活用した授業実践 －

スズキ教育ソフト株式会社

西日本営業部

部長 有谷 仁志

ariya@suzukisoft.co.jp

<http://www.suzukisoft.co.jp>

キーワード 小学校, 総合, プレゼンテーション, 発表, 交流, 掲示板

1. 修学旅行のまとめを発表しよう

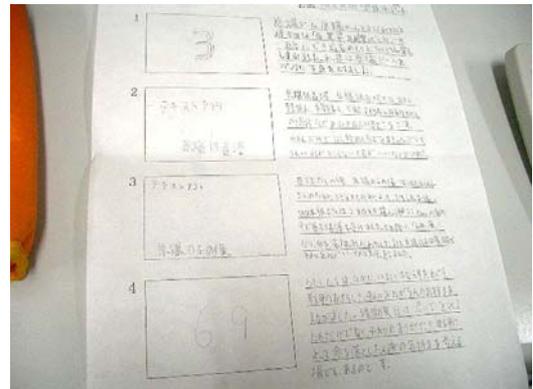
岡山県津山市立河辺小学校にて、修学旅行のまとめとして教育用プレゼンテーションソフト「キューブプレゼン」を使ってプレゼン資料の作成から発表の練習が行われた。

2. ワークシートを使って情報を選び、流れを考えよう

今回は二人一組のグループを作り、1グループ2分程度の発表内容でまとめるという課題が出された。

まず、いきなりソフトウェアを使ってプレゼン資料を作るのではなく、自分が伝えたい内容を整理するためにワークシートが使われた。

なお、情報を絞り込んで内容をまとめるために、利用できる写真は表紙を入れても5枚程度と指定された。児童は、廊下に張り出された修学旅行時の写真から必要な写真を選択し、ワークシートには写真番号を記入するだけとなっていたので、説明時の流れを考えるための時間を多く取れるように工夫がされている。



3. プレゼンデータを作成しよう

キューブプレゼンを使って発表資料を作成する当日、児童はワークシートを片手に満面の笑顔でパソコン教室に集まった。授業開始時に5分程度の説明を受けると、すぐに作業に取りかかり始めた。「キューブプレゼン」は左側に表示される写真集の中から、あらかじめ選択しておいた写真をストーリーバーにドロップするだけなので、非常に簡単に流れを組み立てることができる。また、プレゼンに必要な文字を書き込む、イラストを付け加える、スライドの順序を入れ替えるといった作業も直感的に利用できるため、悩むことなく作業を行っており、パソコンソフトにありがちな「操作を覚える」事に集中してしまうのではなく、「内容をまとめる」事に真剣になっていた。その為、発表の流れを再度見直し、より伝えたいことが伝わるように写真を入れ替える作業まで十分に検討させることができた。



4. 発表しよう

児童は、事前に「話が変わる時には間を入れる」「指示棒を使う」「聞いている人の目を見て話す」など、それぞれ心掛けるポイントを選んでいく。また他のグループ発表を聞く際にも気づきや評価のポイントがわかるようにワークシートを使っていた。これらは、キューブプレゼンに付属しているコンテンツであるが、「声の出し方」「間」「ジェスチャー」などを意識することで、相手に聞いてもらう工夫を児童自身に考えてもらうことを目的としている。

児童の発表は決して手慣れている訳ではなく、むしろ苦手な子も多いため文章を発表するのに精一杯な様子がうかがわれたが、普段の授業でも発表を意識させるための良い機会になった。また、友達のプレゼンテーションを見て、「発表をするときは、そこに自分た



ちの意見や思いを反映させる事が大切である」という点に気づいた児童も多くいた。

河辺小学校では、今後も文集（作文）・模造紙・劇・学習発表会・参観日等に於いて、相手を意識しながら「伝える」学習を深めて行く予定との事である。

5. 交流しよう

岡山県津山市立高野小学校では、4年生の総合的な学習の中で「キューブコミュニティ」を使って他校の6年生との交流学習が行われた。

ゴミ処理場見学をホームページにまとめ、それを話題に他校の児童とやりとりする事により、相手を意識し、相手の立場になって考えられるようになることが目標である。

実際に相手校から誉められたり、内容の確認をされたりすることで、自分たちのホームページに対し責任を持って情報を伝達することの重要性を感じると共に、授業に受け身ではなく能動的に取り組む姿も見受けられた。なお、「キューブコミュニティ」は、相手校を限定して取り組めるため、児童でも安心して交流を行うことができる。

今後は「消防署」をテーマとして、同学年との交流を行うことを検討している。

